令和２年度 山梨県公民館活動研究推進大会

於　：　市川三郷町生涯学習センター
日時　：　令和２年１２月２日（水）１３：３０～
研究主題　：　公民館の『 これから 』

指導助言　　助言者：長谷川義高氏（元県教育委員会社会教育課長）

○ 公民館の「特性」、また、『これから』について整理してみました。

公民館は、

Ⅰ　集う　学ぶ　結ぶ

① 地域の学習拠点
② 主事・県社会教育的専門性
③ 性別・年齢・職業を超えた公共性

Ⅱ　公民館の郷土に関する講座

・本日、公民館事業の紹介の中、甲府歴史物語（甲府市）やヨゲンノトリ（笛吹市）等が取り上げられており、地域への愛着や誇りが感じられた。
・学校では小学３,４年に地域学習があり、社会の連携を学ぶ。
中学､高校にも地域・郷土学習があり、学校・社会の連携が大切。

Ⅲ　公民館に必要な講座

・地域防災の講座
・地域において支援を必要とする人への対応が重要
・高校生等、若者を中心とした取り組みも大切
（アンケートを行う等、公民館が学校とつながるチャンス）
・大学、NPO、企業との連携も重要
・リモートでの集まりにも高い可能性あり

Ⅳ　これからの役割

・ＳＤＧｓの推進センターのような役割も果たすべき。
・国際社会の潮流とつながり、地域の課題をより広い文脈においてとらえる必要がある。
・地域に何が必要なのか？　地域の活動がどの目標に関連付くのか？
（新学習指導要領にも、持続可能な開発目標として掲載。）

Ⅴ　公民館への期待

- 公民館だよりの発信
- ＳＮＳ・ＨＰ等を利用した情報発信・情報共有の必要性
  「ママ友」「無尽」「趣味サークル」「同級生」等、「ゆるやかなつながり」はそこいら中に存在。
  こうしたゆるやかなつながりを、大きなイメージである『公共の福祉目的』によって、緊急時に備え、公民館を中心にゆるくつなげておくことが大切。
- 誰一人取り残さない「包摂的社会の実現」のための拠点としての役割。

Ⅵ　今後の公民館

- コロナ禍により、従来どおりの事業計画は難しい。
- 大きな転換が可能か？　「禍転じて福と為す」ことができるか？
- 福井県では大学生との協力によるＺＯＯＭを利用したオンライン講座開催。
- 本県でも、山梨県生涯学習推進センター等と連携した、各地域の「公民館」における生涯学習講座（受信・発信）の取り込みなどから、将来への可能性が広がり、育ってゆくのではないか。